

市場動向

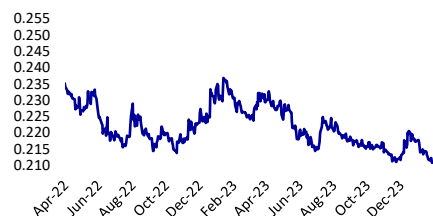
■USD/TWD



■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



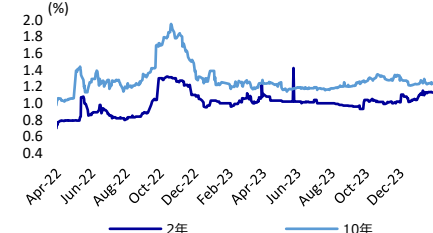
■USD/CNH



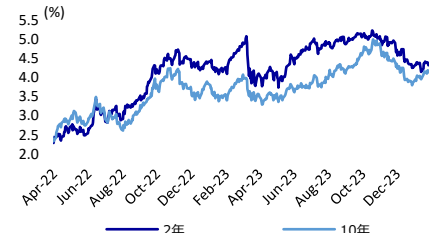
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/22は31.410でオープン後、米金利の上昇が一服していたことなどを好感し台湾株が上昇を続ける中、外国人投資家による台湾株買いが見られたことで、台湾ドル買いが進み31.20台半ばまで下落した。その後、一部の銀行から強いドル買いが見られ一時31.450まで上昇したが、すぐに戻し31.30台半ばで揉み合いの推移。1/23は、中国において政府による株式市場の下支え策を検討との報道を受けてアジア株式市場が堅調な値動きとなると、リスクセンチメントが改善し台湾ドル買いが優勢となり、31.30近辺まで下落した。1/24は、米経済指標の発表を週後半に控え米金利が上昇する中、ドル買いが進み31.30台半ばで推移。1/25は、今年の半導体市況への楽観的な見通しが根強い中、台湾加権指数が約1年10か月振りの高値を更新。外国人投資家による台湾株買いが継続し、31.20台後半まで下落した。1/26は、海外時間に米国重要指標の発表を控え、方向感に乏しく31.30手前で揉み合いの推移。最終的には前週比0.4%ドル安台湾ドル高の31.305で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は812.7億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は変わらず。週初1/22は148.40でオープン後、23日に日銀金融政策決定会合を控え、様子見姿勢が強く148円を挟み揉み合いの推移。1/23は、日銀金融政策決定会合後の記者会見で植田総裁より「物価目標達成の確度が高まっている」との発言が聞かれると円買いが進み、147円近辺まで下落。しかしその後米金利が上昇に転じると、ドル買いが優勢となり一時148.70まで上昇した。1/24は、日本におけるマイナス金利解除観測の高まりから円金利が上昇する中、円買いが進み一時146.65まで下落した。しかしその後、米1月製造業PMIが市場予想を上回る結果となっていたことを受けて、ドルが買い戻され147円台半ばで揉み合いの推移となった。1/25は、米第4四半期PCEは前回対比下落していた一方、米第4四半期GDPは市場予想を上回る結果となっていたことを受けて、147円台半ばで揉み合いの推移。1/26は日1月東京CPIが市場予想を下回る結果となったことを受けて148円台前半まで上昇した。最終的には前週比概ね変わらずの148.14で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.050-31.350

今週は下落を見込む。月末は輸出企業によるドル売りが控えている他、台湾株価が高値を更新する中、外国人投資家による資金流入が継続する場合、台湾ドル買いが進みやすいであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：145.50-148.50

今週は上値の重い推移を見込む。31日のFOMCにおいて利下げのタイミングの議論に進展が見られる場合、グローバルにドル売り圧力が強まりやすいであろう。

今週の予定

1/29 (MON)	
1/30 (TUE)	日12月失業率、米1月消費者信頼感指数
1/31 (WED)	台湾第4四半期GDP、米第4四半期雇用コスト指数、FOMC
2/1 (THU)	台湾1月PMI景況感指数、米1月ISM景況感指数
2/2 (FRI)	米1月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。